

環境心理生理運営委員会 議事録 2015 年度 第 1 回

文責 大石

- A. 【日 時】 2015 年 5 月 22 日 金曜日 (18:00~20:00)
- B. 【場 所】 建築会館会議室
- C. 【出席者】 西名 (主査)、辻村 (幹事)、大石 (幹事)、小島、土田、長野、槇、宗方
松原 (skype 参加)、大井 (skype 参加) 順不同・敬称略
- D. 【配布資料】 1-00 第 1 回環境心理生理運営委員会議事次第
1-01 2014 年度第 4 回環境心理生理運営委員会議事録 (案)
1-02 学術推進委員会 (覚え書き)
1-03 2015 年度大会 環境・心理生理部門プログラム
1-04 2015 年度大会 若手優秀発表 実施概要
1-05 若手優秀発表 実施要綱
1-06 感覚・知覚心理小委員会 議事録 (案)
1-07 感覚・知覚心理小委員会シンポジウム実施計画書
1-08 感覚・知覚心理小委員会シンポジウム実施計画書
1-09 チュートリアル運営 WG 議事録
1-10 チュートリアル実施計画書
※当日紙資料にて配布

E. 【報告事項】

1. 2014 年度 第 4 回環境心理生理運営委員会議事録(案)の確認

前回の運営委員会議事録 (案) の確認を行った。

記載内容について特に修正の指摘はなかった。審議事項 2 のタイトルに誤植があったため、その点を修正したうえで正式な議事録として承認された。

2. 学術推進委員会の報告

今回の運営委員会を第 1 回環境工学本委員会開催前に行っているため、西名主査が出席された学術推進委員会での議事内容について、本運営委員会に関連のある事項について報告された。

■ 予算消化率について

昨年度の環境工学部門の予算消化率は 80%であった。例年並みだが 100%消化している部門もあり、環境工学は依然として悪いという報告があった。

■ 2015 年大会 (関東) について

発表要領について、防火の OS では発表時間、質疑時間の配分が 10 分発表、6 分質疑に変更。環境工学の学術講演では、連報の発表も 6 分に変更となったことが報告された。

また、今年度から学術講演と建築デザインの両方発表可能となった。但し、建築デザインは連名者による代理発表が可能だが学術講演は代理発表が不可。両方が重なった場合は学術講演を優先してほしい旨の報告があった。

大会非公式行事 (小委員会など) の申請は、締切りが 7/3 (金) という報告があった。

若手優秀発表について、環境工学では全運営委員会が実施することとなった。構造はまだ全運営委員会で実施されていないが、これから増えるかもしれないとの報告があった。

※その他の内容については配布資料を参照されたい。

F. 【審議事項】

1. 環境心理小委員会の活動状況報告およびシンポジウム実施計画の審議

環境心理小委員会については、小委員会主査である榎委員より以下のとおり報告された。

第1回小委員会を5/8に公開委員会として開催した。内容は建築人類学に関して三社祭の取材に来られたマンチェスター大の研究者の方が講演した。参加者は20名程度であった。

第2回的小委員会は6月25日に開催予定で、傘下の環境心理研究手法WG、チュートリアル運営WGと一緒に予定である。また、文化と環境WG（主査：大野隆造先生）はまだ未実施だが、7/23に第1回を開催予定である。かわいいと建築に関する研究WGは第1回を4/14に開催し、引き続き、季刊誌の発行に向けて独自に密に活動をしている状況にある。環境心理研究手法WGは、昨年度実施した評価グリッド法のシンポジウムを受けて、今年度はWGで議論を進める予定。今後数年かけて成果を蓄積し、刊行小委員会に移行したい旨をWG主査の小島委員が説明された。

新たに設置した文化と環境WGについて、今後運営委員会での対応が必要か、西名主査から質疑があり、すでに運営委員会で審議済みである旨、6/4の本委員会で諮られる予定であることが確認された。

つづいて、チュートリアル運営WGで実施を企画している「第15回環境心理生理チュートリアル」の実実施計画書について審議を行った。今回のチュートリアルでは、WGでの議論において、これまでアンケート、実験、評価グリッドと一通り実施したので、改めてアンケートをテーマにすることが決定したと報告された。また、WGでは初学者にとって目的の明確化や仮説の設定、それを明らかにするための研究計画、調査計画の立案が課題であることが改めて議論され、その内容に沿って、アンケートの研究事例を川井先生、調査計画の立案とデータ化のノウハウを宗方委員、データ分析について小島委員によりご講演いただくプログラムとなっている。なお、実施計画書については、6/4の本委員会で諮るため5/21に事務局に提出した。

今回、会員2,000円、会員外3,000円と、学生以外の参加費を若干値上げしている理由について西名主査より質疑があった。計画書の予算に講師の旅費や事務局が取るようになった15%の経費を計上したことによる影響との説明がなされた。

その他の指摘は挙がらず、実施計画書は運営委員会で承認された。

2. 社会と環境心理小委員会の活動状況報告

社会と環境心理小委員会については、小委員会主査である宗方委員より以下のとおり報告された。

第1回小委員会は6/15に開催予定であること、活動内容は、昨年までの持続性社会の環境心理小委員会よりも議論の間口を広げて、社会と環境心理の接点を考えていくことを考えている。

具体的には、毎回、ミニ研究として講師を招き、ざっくばらんに議論ができる内容を予定しており、第1回は松原委員が講師として温熱環境の知覚、省エネ行動について講演する。6/15の17時半に開催。ミニ研究会へは別の委員会からも参加していただけるように案内したい。

参加案内に関して、別の委員会も横串で広告できる媒体（以前のEPAのようなもの）が欲しいとの意見が挙がった。

開催頻度について西名主査より質疑があり、宗方委員より2ヶ月に1回くらいは開催したいが、頻度は未定である旨、講師の旅費が出せないため人づてに講師を募りお願いする形になるとの回答があった。今後、講師として川井先生（サウンドスケープ、保育園の音環境）、若林さん（防災）を予定しているとの報告があった。

3. 感覚・知覚心理小委員会の活動状況報告およびシンポジウム実施計画の審議

感覚・知覚心理小委員会については、小委員会主査である土田委員より以下のとおり報告された。

第1回小委員会を4/18に開催しており、主に今年度の活動計画、開催を企画しているシンポジウムについての議論が行われた。 ※その他の議事録の内容については配布資料を参照されたい。

つづいて、感覚・知覚心理小委員会で実施を企画している「感覚・知覚と環境デザイン」、「心理生理のフロンティアを語る(第3回)」の2つのシンポジウムの実施計画について審議を行った。

「感覚・知覚と環境デザイン」は、開催日 10/17、場所は建築会館会議室で実施を予定しており、昨年度刊行小委員会となっていた書籍と連動した内容で実施することが報告された。また、予算に講師旅費を計上しておらず、全て手弁当で行う。開催にあたって、人間・環境学会に後援依頼を行うことを考えているがまだ確認はしていないとの説明がなされた。

「心理生理のフロンティアを語る(第3回)」については、公共空間の音環境について、研究面だけではなく、実務のお話をサウンドデザイナーの武者さんを招いてご講演いただくこととしている。開催日は10/10、場所は大阪の大阪市立文化交流センターホール(会場押さえ済み)で実施を予定している。また、開催にあたって、音響学会、騒音制御工学会に後援依頼を行うことを考えているがまだ確認はしていないとの説明がなされた。

今後の予定としては、実施計画書の事務局への提出となるが、小委員会主査である土田委員から直接事務局に提出することとし、運営委員会主査の西名先生には同報にて連絡することとした。

なお、実施計画書については、「感覚・知覚と環境デザイン」の実施日時等の誤植を修正、および両シンポジウム計画書の予算の計上方法を事務局に確認のうえ修正することとした。

その他の指摘は挙がらず、実施計画書は運営委員会で承認された。

4. 今年度の若手優秀発表の実施について

今年度の大会における若手優秀発表の実施にあたり、実施概要の見直しについて議論を行った。

昨年の環境心理生理運営委員会で実施した若手優秀発表の審査について、どのような問題点が議論されたのかについて西名主査より質疑があった。全運営委員会主査の松原委員より、かなり採点基準にばらつきがあった(ほとんど空白の人、沢山○をつけた人が混在した)状況を受けて、運営委員会による合議で受賞者を決めたという経緯の説明があった。

また、昨年度の運営委員会の議論では、配布資料1-04に示すように審査基準の評価項目3つを設けていたが、それを廃止して総合的にひとつの評価をつけるやり方が良いのではないかと、という方向性で合意した。

その他、議論の際に委員より挙げた意見を以下に箇条書きで示す。

- ・他の運営委員会は、5段階で評価を行うものや、割合をしっかりと決めているものがある。
- ・配布資料の環境心理生理の採点方法を確認すると、審査基準に1~3について、それぞれの項目を評価するのではなく、これらの項目を勘案した総合的な評価を付ける、と読める。
- ・昨年度、審査結果の議論をした際の運営委員会議事録を確認すると、「テーマを自分で考えてやっている」、「テーマを与えられていても内容を理解して説明ができています」場合は高く評価するということが合意していた。また、研究への関わり方として、大きな共同研究の枠組みのなかで、学生個人には裁量がなさそうでもがんばっている人の評価はしたい。
- ・昨年の評価では、空欄ありの4段階とした人と、空欄なしの3段階で評価した人がいた。実施概要の審査方法をみると、現状であれば空欄ありと読めてしまう。

- ・いくつくらい、◎、○を付けるかということを決めておく必要がある。もし空欄を可とするなら上位 10%程度に印が付くなら、70 件くらいは空欄になるはず。
- ・審査結果の欄の空欄は評価し忘れか否かが判断が付かなくなるためやめた方がよい。現状の評価基準を変更するなら、△の「優れているが」の記述をなくす、「レ点：上記には該当しない」の基準を増やすのがよい。
- ・昨年は、一定レベルには達している研究が比較的多かったため△を多く付けてしまった。△の記述を「平均以上ではあるが」という記述、「レ点：普通、もしくは普通以下」という記述はどうか。
- ・何人で評価しようと考えているのか。
 - 昨年は 3 人置くのは大変という判断で 2 人にしたと松原委員より説明があった。
- ・今年度の環境心理生理のセッションは、今年は 3 日間に渡るわけではないので、審査員を増やせるように思う。光環境は司会 1 を含めて 4 人体制でやっている。
- ・完全割り当て式ではない方法で審査できないか？ 自主的に全て発表の審査をしてくれる先生がいる場合、割り当て以外で評価してくれたその先生の審査も考慮できる。逆に、全て審査しても一部の評価しか使われないことでよしとするか？
- ・まだ時間はあるので、運営委員会メンバがそれぞれどれくらい会場にいられるかを確認して審査員の組合せを考えても良いのではないか
- ・運営委員会委員のみを審査員とするのか？ 昨年は、久野先生、古賀先生が運営委員会メンバではないが審査員になっていただいた。
- ・司会者が表彰対象者である可能性もあるので、司会者を審査員とすることはできない。
- ・運営委員会委員が自主的に多くの発表を審査した場合、審査員の人数が発表によって異なることが考えられる。審査員の人数が 10 人の場合に推しているものと 3 人の場合に推しているもので、評価者が多い 10 人セッションの方が選ばれるのは、審査員の人数によって有利、不利が生じるので良くない。少ない評価者で評価された方も同じように扱うことを合意しておく必要がある。

実施概要の内容について事務局から最終確認の依頼がきている（5/25 が締切り）ため、以上の議論を受けて、西名主査が原案を作成し、メールで各委員に確認のうえ事務局へ提出することとした。

なお、審査方法については、「特に傑出している」という基準は廃止し、「◎：10 件に 1 件程度」、「○：5 件に 1 件程度」、「△：平均を上回るが 5 件に 1 件には届かない」、「レ点：平均を下回る」、という基準で整理することとした。審査基準については、複数の評価項目それぞれを評価するのではなく、各基準を総合的に勘案してひとつ評価を付けることとした。審査員の人数については、セッションごとに 3 名を指名し、自主的に評価した結果も審査結果に反映することとした。また、「すでに受賞経験がある人は審査対象者から外す」という記述を追加することとした。

最後に、審査の対象となる若手について、審査対象の候補者になることの可否を確認する必要があるとの意見が挙げられた。

評価されたくない、審査されたら困る、といった状況はあまり考えられないが、例えば、表彰されたら困る、という場合は、辞退してもらえればよいとの意見が挙げられた。

日本生気象学会、音響学会、騒音制御工学会、色彩学会では全て対象者に事前の確認があることが紹介された。

審査の対象となる若手の連絡先等については事務局に確認する必要がある。

昨年度、対象者の年齢の話が挙がった際、事務局から資料をもらったという経緯がある。

環境心理生理運営委員会では、対象者にとにかく確認するという方針で合意した。

以上のご意見を受けて、西名主査より事務局にデータの提供について確認をいただき、データが提供されるならば運営委員会で確認作業を実施するか判断することとした。

5. 特別研究、若手奨励特別研究への応募について

本日は時間の関係上議論ができなかった。

改めて議論することとした。

6. 6/4の本委員会への代理出席について

6/4 に開催される環境工学本委員会に、西名主査が出席できないため代理出席をお願いしたいとの依頼があった。

辻村幹事が代理で出席することとなった。

G. 【次回の開催日程】

2015年9月29日（火）17:30～19:30 （第2回環境工学本委員会開催日）

以上